

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		聖隷放課後クラブはなえみと合				公表日	2025年 3月 26日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	2	・利用人数に応じて使用する部屋を決めている。	・活動別に使用する部屋を変更する等こどもたちが自分のペースで過ごせるよう環境設定を検討する	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	5	2	・こどもが安心して利用できるようクラス担任制としている。	・急な個別対応が必要な場合、他児への対応が希薄になってしまうことがあるため、職員配置を工夫する	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		・エレベーターもあり、バリアフリーな環境 ・スケジュールを視覚化している	・こども一人ひとりに応じた情報伝達の方法について検討する	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	・遊ぶスペースをマットで分けたり、マットを片付けて広く使うなど活動にとってスペースの使い方を工夫している。	・こどもたちと一緒に自分たちが生活する空間・場所の使い方やルールを決める等こどもの声を聴き一緒に作っていく取り組みを始める	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	・仕切り等で個人のスペースを作っている。 ・気持ちが悪くならないときには、職員と一緒に別の部屋で過ごしたり、廊下を歩く等している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	・正職員は参画できている	・パート職員を含めたすべての職員が参画できるように、職場会議やリーダー職員の役割を見直す	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	2	・遠慮せず話しやすい雰囲気を作るよう努めている ・保護者向けアンケートを基に改善点を挙げ、次年度事業計画を作成している	・保護者向け評価は回収率が低いいため、個別に依頼する等対応が必要	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・毎日の打ち合わせ時に意見を出し合って必要なことは決めることができています	・大きな改善が必要な時は、解決まで時間を要するため、タイムリーに職員へ経過報告を行う体制整備が必要である	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2	・第三者により外部評価を実施し、評価結果は次年度事業計画に反省することができた	・今年度はじめて外部評価を実施した。第3者による外部評価の効果的な実施方法を検討する	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・年間計画に基づき、昨年度より多くの研修を実施することができた	・研修での学びを支援に活かしていく取り組みの継続。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	2	5	・支援プログラムの作成に全職員が参画できた	・公表時期が年度末となったため、職員間での理解度に差がでている ・毎年見直すPDCAサイクルを作ることが必要	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4	3	・客観的なアセスメントと保護者やこどものニーズを基に、放課後等デイサービス計画を作成している	・アセスメント力向上への取り組みを行う	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	2	・計画作成時に、こどもと保護者の想いを聞く機会を設けている ・職員参加のカンファレンスにて支援計画を作成している	・こどもが想いを発したいと思える関係性構築や場面の構築、行動や態度など非言語的な表現で伝える想いをくみ取れるよう、職員の資質向上への取り組みが必要である	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	3	・放課後等デイサービス計画はすべての職員で共有できている	・放課後等デイサービス計画から日々の活動プログラムにつなげる効果的な仕組みを検討する	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2	・フォーマルなアセスメントと日々の行動観察、学校での様子からこどもの適応行動の状況を確認している	・医療機関等他機関で実施した検査結果はタイムリーに共有することができていないため、連携体制を構築する	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	3	・支援内容については具体的に設定するよう努めている。	・こども一人ひとりに寄り添った支援内容になるよう継続した学びが必要。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	・クラスで相談し活動プログラムを立案している。	・5領域の年間の支援目標を基に、計画的に活動計画を立案できるようPDCAサイクルを確立する	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		・月ごとに活動プログラムを作成し、内容にふなかりを持たせたり、固定化しないよう工夫している	・職員ひとりひとりが、こども達の声を聞くこと、こども達と一緒に考えた活動やこども達の「楽しい」「やってみたい」を広げることができる活動を計画していく。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	2	・放課後等デイサービス計画に基づき、リハビリ等個別の関わりを実施している ・当日のこどもの状況に応じて、個別活動に切り替える等柔軟に対応している	個別活動を計画的に行えるよう、人員配置を工夫する
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	2	・毎日、打ち合わせを行い、送迎・こどもの様子・活動内容・配慮事項等の確認を行っている	・日案を用いて、流れや配慮事項について職員間で共有をし行っていく仕組みを継続していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	5	・送迎があるため、緊急的なことのみ当日に振り返り、翌日の打ち合わせで共有や確認をしている。	・日誌を活用し、すべての職員が把握できるよう工夫する
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	2	・クラス担任が日々の記録入力を行っている	・記録方法を統一するとともに、クラス会議にて支援の検証・改善を行う
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	2	5	・6か月ごとにモニタリングを行っている	・臨時でモニタリングが必要になったケースに対応できる仕組みを作る
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	1	・日々の活動プログラム、長期休みの外出等にて、さまざまな体験ができるよう企画をしている	・地域交流の機会を増やしていけるように計画をしていく
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	1	・おやつや活動、遊びに誘われたが迷っている場面等で二者択一での気持ちの聞き取りをしている。	・こども一人ひとりに合った伝え方、聞き方ができるよう職員の資質向上に努めていく
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1	・支援会議等に、児童発達支援管理責任者だけでなくクラス担任も参加してきた。	・今後も、クラス担任が会議に参加できるように調整をしていく
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	4	・相談支援事業所を通じて連携を図るよう努めている ・授業参観等学校で取り組んでいることを参考に活動プログラムを作成している	・カンファレンス等を活用しパートさんを含む全職員がこどもに関する関係機関を周知する取り組みを行う
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		・学校の年間計画等については、保護者を介して確認をしている ・年度初めに、学校と送迎時の対応等についての確認を行っている	・個別に配慮が必要な児に関しては、適宜学校との連絡体制を継続して取り組む
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	3	・サービス担当者会議やサポートかけはしシートにて情報の共有を行っている ・入学前に、児童発達支援事業所を訪問し、児の状況を確認するよう務めている	・パートさんを含む全職員で就学前の情報を共有する場を設ける
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	4	・今年度、該当児がいないため、実施できていない。該当児がいる場合は、サービス担当者会議にて引継ぎを行う。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	3	・こども理解と支援方法について毎月研修を実施している	・児童発達支援センターと多機能で運営しているため、職員が連携体制を整えているか判断しづらい。他児童発達支援センターとの関わりも模索する。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		7	・生活困窮事業の学習支援に参加している小学生以上のこどもとの交流について検討を重ねたが、実施には至らなかった	・こども園のこどもたちをイベントに招待する等関わる機会を設ける
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	6	・事業所として自立支援協議会（区・市）・放課後連絡会に参加している	・職員への周知が不足しており、現実と認識に差があるため、職場会議を活用し共有する
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・降所時や自宅送り時を活用して、様子を伝えている。	・保護者が自ら放課後等デイサービスに話したいと思うように、日常的な関わりを積み重ねるとともに、情報発信を工夫する
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	5	・施設に研修案内を掲示している	・コドモンを活用し、ご家族が参加できる研修について情報提供を行う ・家族会を活用し、簡単な研修を企画する
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		・ご家族の状況に応じて、説明方法や場面を設定している	・ご家族が知りたい情報をタイムリーに知ることができるようコドモンを活用する
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	1	・こどもや家族の意向や想いを確認する機会を全員設けている	・支援計画作成時に意向を聞き取るため、その時の想いに比重が重くなるあるケースがあるため、真の意向が確認できるように日常的な関わりを大切にする
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	1	・面談にて、計画書を見ながら説明を行い同意を得ている	・保護者の都合を配慮した面接日程にて、「放課後等デイサービス計画」の説明・同意を得ることは継続する。支援計画作成の流れを全職員で再確認する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		・保護者が話しやすい雰囲気と関係作りに努めている	・ご家族が相談したいと思うような関わりを継続する

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	3	・保護者座談会や行事にて、保護者同士が交流する場を設けた	・きょうだい同士が交流する機会となるよう、施設開放週間を計画する
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		・苦情対応の体制を整備するとともに、迅速かつ適切な対応を継続する。ご家族が「少し気になる」と感じたことを受け止めることができるよう、職員の資質向上に取り組む	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		・定期的な写真販売・ほけん便り・給食便りを継続するとともに、コドモンを活用して日頃のこども達の様子を発信する取り組みをする	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	3	・規則に従って、個人情報を管理している	・「個人情報」の認識に職員間で差があったため、今年度勉強会を実施した。次年度も継続して、学びを重ねる
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	1	・こども達には、なるべく端的にわかりやすく話すことを心がけている。保護者には専門用語は使わずにわかりやすく話すことを心がけている。	・すべてのこどもや保護者に配慮できるよう、職場会議で確認する。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6	・和合せいれいの里祭りに、地域住民を招待した	・行事へ招待する機会を設けるとともに、地域に出向くことができないか検討する
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	3	・職員に各種マニュアルを周知するとともに、発生を想定した訓練は実施できている	・ご家族に対して周知はしているものの、しっかりご理解をいただいているかは不安が残る。コドモンを活用し、いつでも閲覧できる仕組みを作る
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		・業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、職員研修・訓練を事業所・法人として2段階にて実施している。今後も、継続した取り組みを実施する。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		・利用開始前に、服薬・予防接種・てんかん等医療情報を確認している。服薬内容に変更があった場合は、心身の状況変化とともに配慮点を確認し、状態をご家族と共有する。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		・医師の指示書によるアレルギーの対応を実施している。医師の指示書を基に、看護師・管理栄養士が保護者面談を実施するとともに、給食やおやつ提供時はダブルチェックを行う。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		・安全計画を作成し、研修や訓練その他必要な措置を講じている。次年度は、こども達が自身の身を自分で守る力をつけることができるよう「安全教育」に注力する。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		・安全計画に基づく訓練や非常災害に対する訓練の様子は、コドモンにてお知らせしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	1	・ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた取り組みを行うとともに、必要時にはマニュアルの見直しや作成を行っている	・類似する事象のヒヤリハットが続き、対策が不十分な時がある。類似した案件は、原因と対策をしっかりと分析を行い、迅速に全員で共有する
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		・年間計画に基づき、職員研修の機会を確保するとともに、「気になる言動」に関する共有と対策を職場会議で行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	2	・身体拘束の必要性に関しては、身体拘束適正委員会にて検討・モニタリングする体制を整えている。今年度、身体拘束が必要な児はいない。	